

# 常光寺々報

2023.6

孟蘭盆会 文化講座

七月十六日(日)

昼一時半～三時半

石屋さんから見た

現代のお墓事情

大橋石材店

講師 大橋 理宏 氏

お経本とお念珠をお持ちください。



法座の案内

コロナ対応が五類に引き下げられてひと月、そろそろ法座を再開いたします。

安らぎ法座 六月二十三日(金)十時半～

光輪会総会・追悼会

光輪法座

七月三日(月)十三時半～

今回の御講師は常光寺『光寿廟』を作っていたいただいた横須賀市平作にある大橋石材店の社長さんです。

日本中あちこちでご講演をされていることから、今回の文化講座へのご出講をお願いいたしました。

かつては岩下志麻さん主演で「お墓がない！」という、お墓が欲しいというコメディ映画がつけられたこともありました。常光寺にも少子化の波と転勤定着により、墓じまいを希望される方がいらつしやいます。致し方ないこととはいえ残念なことです。

ご門徒目線でもお寺目線でもない、第三者目線で現代のお墓事情をお話しいただきます。どうぞご参加ください。



トルコ地震義援金

災害が起きるとお賽銭箱を募金箱にして、そのお金を義援金として寄付することを始めてしばらくたちます。

寄付を募る張り紙をお賽銭箱に張った後で、日本でも痛ましい事態が起きました。日本でも痛ましい事態が起きました。張る紙のとおり日本赤字社を通じて7万6260円を寄付いたしました。

明日ありと

思ふ心の仇桜

夜半に嵐の

吹かぬものかは

親鸞聖人が九歳でお得度する時に詠んだと伝わる歌ですが、五十歳を超えた私の心には、今日も仇桜が咲き誇り、嵐の吹かぬことを願うばかりの生活をしています。

災害の度に、夜半の嵐は老少不定であると教えられているのですが・・・。

## 御供物は何を？

ご法事の際にお供物をお持ちいただきませんが、「何を用意すればいいのでしょうか？」というご質問をされることが増えてまいりました。

御供物は仏さまにお供えするものであり**本堂を御荘厳**するものであります。お香、燈明（ロウソク）、お花。これらもお供物ではありますが、この場では本堂にお持ちいただく一般に言われるお供物のお話をさせていただきます。

今から三十年ほど前、学生時代に先生から「ご門徒さんに聞かれたら、昔からこういわれていますと答えたらい」と教えていただきました。

『お供物は、大事な物、貴重な物、

故人の好きだった物をお供えください』

大事な物とは私の命をつないでいくために大事な物であり、「米」や「野菜」などに代表されます。「モチ」や「赤飯」などもありました。昔は畑で出来たその年最初の野菜をお寺へお持ちいただくことは全国的によくあったそうです。貴重な物とはなかなか手に入らない物ですので、「果物」「菓子」などの甘味や「酒」などが多かったそうです。現代で果物・お菓子・お酒をお供物とされるのが多いのは、この流れではないかと思えます。

故人の好きだった物となると色々ですね。好きだったお菓子やお酒、庭で丹精されていたお花・野菜等々・・・。和洋の別や語呂合わせ、花言葉の類は気にする必要はありません。

実際にはこれら以外にも、地域の風習、我が家は昔からコレという定番の物、実用的な物、お寺さんが好きだから

らと気遣われた物など、様々なものがお供物としてお供えされます。とも教えていただきました。

マニュアル時代、ネット時代で簡単に正しい答えを求めがちな現代ですが、「御供物」の精神は、仏様に私が手に入られる最良の物を、おかげさま、もつたいない、ありがとうの気持ちと共に、お供えすることです。

「南無阿弥陀仏」とご法事のご縁を結んでいただければと思います。

**如来大悲の恩徳は**

**身を粉にしても報ずべし**

**師主知識の恩徳も**

**ほねをくだきても謝すべし**

お寺のホームページからも寺報をご覧ください。

下記QRコードよりお入りください。

